



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子

2020年3月2日

No. 13

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：夢に向かって、主体的に学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成

目指す児童像：《 ーかしこくー ーたくましくー ーやさしくー 》

☆いつも まなぼうとする子 ☆りりしく たくましい子 ☆やさしく たすけあう子

心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやおき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

－今年度も締めくくりの月を迎えました－

いよいよ「弥生3月」。今年度の締めくくりの月を迎えました。4月に始まり3月に終わる1年間のくくりを「年度」と言い、日本の学校が4月に始まり、3月で終わるようになったのは明治時代からだそうです。

北と南では、季節に差がありますが、寒さを乗り越えた3月で1年を締めくくり、卒業生や先生との別れ、4月に桜の開花と共に新しい年度が始まり、新入生や先生を迎え、新たに出会う、という「学校年度」は日本の季節風土や文化とも見事に融合しています。

入谷小学校の6年生16名は、卒業式を境にして中学生として自立への道を、また一歩、大きく踏み出します。1年生から5年生の子供たちも、次の学年への一歩を踏み出せるように、1年間のまとめに取り組んでいます。

あっという間に過ぎ去ってしまう3月ですが、しっかりと今年度を締めくくり、新しい年度を迎えたいものです。「締めくくるって言っても何をすればいいんだ？」という声が聞こえてきそうです。昨年、私は、学校の1年の始まりにあたり、入谷小学校全校67名の子供たちが「このようになってほしいなあ」という私の願いについて第1学期始業式で下記のことを話しました。

《第1学期始業式に話した内容》・・・目標や夢をしっかりとつこと！

『いつも まなぼうとする子』・・・かしこく

- ①勉強が楽しい、分かると感じる子
- ②家庭学習を毎日する子
- ③進んで読書する子
- ④家で学校の話をする子



『りりしく たくましい子』・・・たくましく

- ①進んで外遊びや運動をする子
- ②早寝、早起き、朝ご飯ができる子
- ③自分の仕事や役割を果たすことができる子
- ④自分の命を守ることができる子



『やさしく たすけあう子』・・・やさしく

- ①進んであいさつする子
- ②学校のきまりを守る子
- ③友達となかよくする子
- ④将来の夢や目標をもつ子

今年度をスタートするに当たり、自分自身で立てた計画は何だったのか。思い描いた自分の夢やめあては何だったのか。学校では、「初心」にかえり、足りないものがあれば補い、ずれた方向は修正し、3月と4月の間にある「年度」の境をしっかりと自分の力で乗り越えられるように指導、支援しています。是非、ご家庭におかれましても、充実した年度の締めくくりに向け、お子さんと話し合う機会を設けてほしいと思います。

《2月の職員会議で教職員に提示したことばです!》



のことば・・・



『今を受け入れ、今を超える』

《車いすアスリート つちだ 土田 わかこ 和歌子 選手》

「今を受け入れ、今を超える」 ～本校の目指す児童像「自己ベスト」と関連付けて～

これは、日本を代表する車いすアスリートの土田和歌子選手の言葉です。土田選手は、高校時代の交通事故が原因で脊髄損傷となり車いす生活になりました。その後、アイススレッジスピードスケートで活躍した後、陸上競技に転向。1988年の長野パラリンピックでのアイススレッジスピードレース金メダルに続き、2004年アテネパラリンピックでも車いす陸上競技5000mで金メダルを獲得し、日本人史上初の夏・冬パラリンピックでの金メダリストになりました。2008年北京パラリンピックでは5000mレース中のアクシデントによる怪我で入院生活を送りましたが、入院先で現役続行を決意。2012年のロンドンパラリンピックにも出場し、日本選手団の主将を務め、2013年の大分国際マラソンで世界記録を更新した選手です。

土田選手は著書の中で以下のようなことを書いています。

「私はレースに出場するたびに『意味があつてここにいるのだ』
と思います」

「試練は苦しみではなく人生を好転させるもの」

「現状を受け入れなくては前に進めない」

「目標があれば、全ては乗り越えられる」



人は誰でも夢や目標を持ちます。そして、それに向けて一生懸命取り組もうとします。しかし、どうしても途中でうまくいかなくなってだめになることがあります。そんな挫折を経験したとき、誰かのせいにしたり、諦めたりしてしまいがちですが、大切なのは、そのときの現状を受け入れて未来志向で前向きに乗り越えようとする姿勢であり、新たに目標を立てて努力することだと思っています。

年度末を迎え、各学級において、今年度の反省を踏まえ、来年度の目標を子供たちと話し合う機会があると思います。土田選手の言葉と実話を紹介し、困難な場面に出合っても、未来を見つめ、困難を乗り越えられるような心の強さを子供たちに伝えてほしいと思います。